

# 河川防災情報利用者の意見整理

自治体防災担当および消防団関係  
調査時期 平成17年6月

報道機関の記者  
調査時期 平成18年2月

# 意見の要約

- 河川防災情報は、命がかかる情報。
- 防災用語を使うのは余裕のない災害時。
- 瞬時に意味を理解できなければならない。
- 発信者や中継者は、短時間で的確に情報を伝えなければならない。
- 紛らわしい用語や難解な用語は、正確に伝えることは出来ない。
- 一般住民に分かりやすくイメージしやすい情報

# 利用者の河川防災用語に対する意見

## 1. 河川管理者が行った風水害情報研修会での主な意見 (消防団・自治体防災担当を対象)

- 表現内容を一般市民にもわかりやすいようにしてほしい。
- 数字は災害をイメージしにくい。防災機関向け以外に一般用の情報を考えてもらいたい。
- ガイドブック(説明資料)が不要なくらい防災情報が平易であればよい。
- 雨量、震度等数字だけでなく具体的な事象を示した災害情報の提供(分かりやすい言葉での表現)。
- 住民にわかりやすい、イメージしやすい表現(用語)の検討 ex～m3や～tなど一般住民は理解しづらい。

## 2. 報道記者の意見

■高齢者などにも意味が理解できるような、情報の出し方が理想。  
例えば、「警戒水位」「特別警戒水位」「洪水警報」「大雨警報」「土砂災害警戒情報」と、いずれも「警」という言葉が使われているが、その時に住民が取るべき行動指針は微妙に違うはず。

しかし、住民にとっては、「警」がつく情報は「同じ重要度」で捉えたり、「警戒水位」と「特別警戒水位」のように違う用語も、同様な情報と認識している場合が多い。普段から防災情報に接していない住民が、情報を聞いた場合「直感的に判断できる」よう、あるいは河川と砂防の違い等で同じ語句の意味が微妙に違ったりしないよう、再チェックも必要と思う。（鹿児島）

■防災情報を扱うのは、“緊急時”である。紛らわしい言葉や難解な言葉は、すべて瞬時に理解することはできず情報は様々な機関から送られてくる。年に1度、聞くか聞かないかの防災用語を的確に理解するためにも、報道機関側の備えと情報提供側の工夫がそれぞれに欠かせないと痛感する。（北海道）

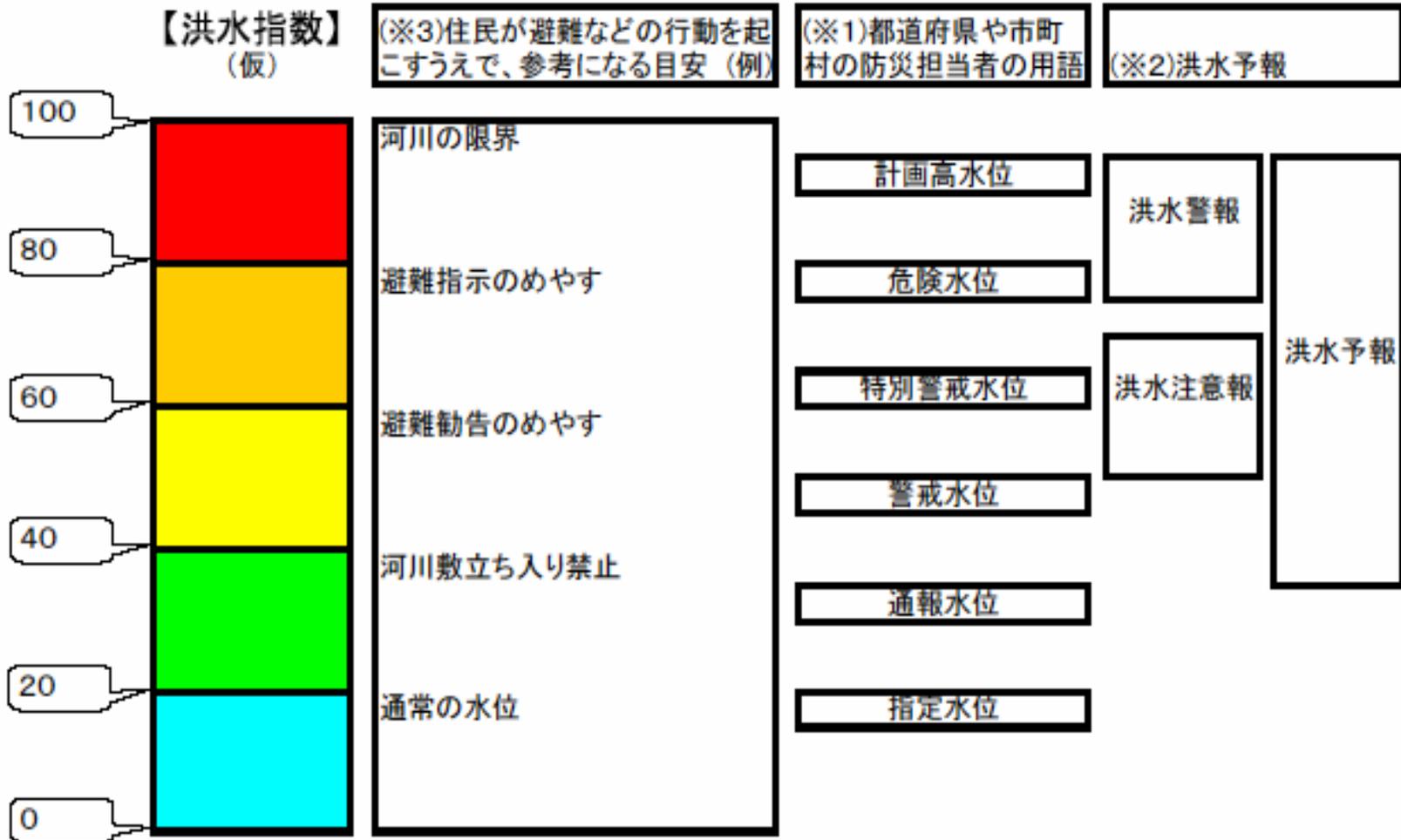
■水位に・計画高・危険・特別警戒・警戒・指定 があり、さらには・水防警報・洪水情報・特別警戒水位情報 など情報も複数あり、それぞれが何を意味するのか、どれが最も危険なのか、わからないのが現状。管理者内ではこうした細かい区分は、被害を受ける住民に具体的なイメージを伴う情報として伝わらなければ、それは意味不明な‘記号’に過ぎない。伝え手の立場にいる報道機関が理解できずに出す情報が、説得力を持って視聴者に伝わるとは思えない。火山情報が、専門家によって「緊急」「臨時」「観測」とわかりやすく分類されたように、危険度や切迫度に応じたシンプルな区分けが良いと思う。（東京）

■用語の難解さは、大きな課題。ローカル局で多くの用語を知っている人は皆無。学習しながら伝える作業となり、情報キャッチの段階でも用語がわからずに四苦八苦している。管理者以外に伝えるときは、用語も読み替えて一般的な言葉で伝えるべきである。記者の早とちりで意味を逆に取り違えて大騒ぎになったこともある。（愛知）

■住民の避難につながる「水位」に関する情報は、誰もがわかるようにすべき。現状では「指定」「警戒」「特別警戒」など、どう異なるのか住民はわからないと思う。例えば住民に伝える情報は「警戒」と「危険」の2段階のみとし、「警戒水位を超えたら避難の準備」「危険水位を超えたら即、避難」というように「水位」と「住民の取るべき行動」が簡潔にリンクできるようにすれば避難行動もわかりやすくなると思う。次頁の付図参照（北海道）

# 報道記者からの一提案 前頁の意見(付記)

(別紙) 河川防災用語について



※「〇〇水位(※1)」の情報と「洪水予報(※2)」をリンクさせたいので、住民が対策をとるさいのめやすとなる【洪水指数】(仮名)をあわせて発表する。これ(※3)は、河川の観測点ごとの指数で、市町村などを通じて、避難場所や避難経路、ハザードマップなどとともに、各過程に事前に周知しておくことで、効果が期待できると思います。

主な河川防災用語に対する  
「分かりやすさ」と「表現方法」等の調査結果

全国の報道記者11名に聞いてみました(実施日 2月20日～21日)

用語	現在の用語から意味するところを理解できるか？	選択人数	理解の促進または危険認識の推進のために？	選択人数	改善案(■)または意見(◇)
水系	①理解できる。	5	①表現はこのままでよい。	10	■「〇〇水系の××川」
	②大まかに理解できる。	6	②表現(用語)を改善すべき。	1	
	③理解できない。	0			
左岸	①理解できる。	8	①表現はこのままでよい。	7	■「左岸(川の上流から見て左岸)」。どちらが上流か分からない場合には地名をあわせて併記。 ■「上流からみて」を常につける。
	②大まかに理解できる。	1	②表現(用語)を改善すべき。	4	
	③理解できない。	2			
右岸	①理解できる。	8	①表現はこのままでよい。	7	
	②大まかに理解できる。	1	②表現(用語)を改善すべき。	4	
	③理解できない。	2			
直轄区間	①理解できる。	0	①表現はこのままでよい。	0	◇管理の主体が、言葉からは伺えません。 ■「国が管理する区間」 ■「国土交通省管理区間」
	②大まかに理解できる。	5	②表現(用語)を改善すべき。	11	
	③理解できない。	6			
指定区間	①理解できる。	0	①表現はこのままでよい。	0	◇「誰が何を指定したのか」わかりづらく、説明が必要。 ■「都道府県が管理する区間」 ■「都道府県管理区間」
	②大まかに理解できる。	2	②表現(用語)を改善すべき。	10	
	③理解できない。	8			
堤防	①理解できる。	11	①表現はこのままでよい。	11	
	②大まかに理解できる。	0	②表現(用語)を改善すべき。	0	
	③理解できない。	0			

堤内地	①理解できる。	0	①表現はこのままでよい。	0	◇逆に堤防「内」と勘違いする。住民目線が欠けた典型的な例。 ■「堤防の外側」 ■「堤防の中(側)、堤防の内側」
	②大まかに理解できる。	0	②表現(用語)を改善すべき。	11	
	③理解できない。	11			
堤外地	①理解できる。	0	①表現はこのままでよい。	0	◇逆に堤防「外」と勘違いする。 ■「河川と堤防の間」 ■「堤防の外側」
	②大まかに理解できる。	0	②表現(用語)を改善すべき。	11	
	③理解できない。	11			
高水敷	①理解できる。	0	①表現はこのままでよい。	0	◇放送では使わない。 ◇意味を推理することが難しく、特に耳から入った場合は伝わりにくい。 ■「河川敷」 ■「河川内利用地」 ■「河川内公園」
	②大まかに理解できる。	1	②表現(用語)を改善すべき。	10	
	③理解できない。	9			
余裕高	①理解できる。	1	①表現はこのままでよい。	5	◇説明を加える必要。 ◇何に対する「余裕」か不明。
	②大まかに理解できる。	5	②表現(用語)を改善すべき。	5	
	③理解できない。	5			
堤防天端	①理解できる。	1	①表現はこのままでよい。	0	◇「天端」は日常使われない、耳から入る言葉としては難しい。 ■「堤防の最も高い部分」 ■「堤防の上部」
	②大まかに理解できる。	4	②表現(用語)を改善すべき。	11	
	③理解できない。	6			
T. P.	①理解できる。	0	①表現はこのままでよい。	1	■「東京湾の平均海面」 ■「東京湾の平均海水面の高さ」
	②大まかに理解できる。	2	②表現(用語)を改善すべき。	10	
	③理解できない。	9			

指定水位	①理解できる。	1	①表現はこのままでよい。	0	◇一般に耳慣れない言葉であり、必ず言い換えて伝えている。 ■「水防団出動準備情報」 ■「注意水位(水防団準備)」 ■「危険度が最も高い、ランク1」のような、アメリカのハリケーンの危険度のような「カテゴリー1」とか、A～Eという表現の方がわかりやすい。 ■「水防指定水位」
	②大まかに理解できる。	2	②表現(用語)を改善すべき。	10	
	③理解できない。	8			
通報水位	①理解できる。	2	①表現はこのままでよい。	1	◇指定水位との違いが不明、危険に対してどの段階にいるかも判らない。 ■「注意水位(通報開始)」
	②大まかに理解できる。	4	②表現(用語)を改善すべき。	9	
	③理解できない。	5			
警戒水位	①理解できる。	2	①表現はこのままでよい。	2	■「警戒水位(水防団出動)」 ■「警戒開始水位」
	②大まかに理解できる。	7	②表現(用語)を改善すべき。	8	
	③理解できない。	2			
特別警戒水位	①理解できる。	1	①表現はこのままでよい。	2	◇情報を作り出す側の論理での用語、住民にどの程度必要なかと思う。洪水のおそれがあるとなかろうと、洪水が起きれば避難すべき。自治体内での基準階のように思える。 ■「警戒水位(避難目安)」 ■「避難開始水位」
	②大まかに理解できる。	6	②表現(用語)を改善すべき。	8	
	③理解できない。	4			
危険水位	①理解できる。	3	①表現はこのままでよい。	5	■「危険水位(避難必要)」
	②大まかに理解できる。	6	②表現(用語)を改善すべき。	5	
	③理解できない。	2			
計画高水位	①理解できる。	1	①表現はこのままでよい。	1	◇整備する側の事情によって名前がついている。防災情報は、一般市民への影響が名前をつける基準。危険水位との違いが分からない。 ■「計画水位」 ■「安全水位」。
	②大まかに理解できる。	4	②表現(用語)を改善すべき。	9	
	③理解できない。	6			

水位情報周知河川	①理解できる。	0	①表現はこのままでよい。	2	■「洪水想定河川」。 ■洪水危険指定河川 ■洪水警戒河川
	②大まかに理解できる。	7	②表現(用語)を改善すべき。	9	
	③理解できない。	4			
浸水想定区域	①理解できる。	9	①表現はこのままでよい。	11	
	②大まかに理解できる。	2	②表現(用語)を改善すべき。	0	
	③理解できない。	0			
洪水ハザードマップ	①理解できる。	10	①表現はこのままでよい。	10	■「洪水時避難マップ」
	②大まかに理解できる。	1	②表現(用語)を改善すべき。	1	
	③理解できない。	0			
洪水予報	①理解できる。	7	①表現はこのままでよい。	8	■「洪水指数」などの数的レベル表示◇住民が頻繁に接しているのは、洪水注意報と洪水警報。住民への呼びかけ用語と、水防関係者への呼びかけ警報は、全く差別化すべき。「警報」という用語は乱発すべきではない。
	②大まかに理解できる。	4	②表現(用語)を改善すべき。	2	
	③理解できない。	0			
洪水注意報	①理解できる。	9	①表現はこのままでよい。	9	◇気象庁の発表する「洪水注意報」と混同しないような工夫が必要。 ■「〇〇川洪水注意報」
	②大まかに理解できる。	2	②表現(用語)を改善すべき。	1	
	③理解できない。	0			
洪水警報	①理解できる。	9	①表現はこのままでよい。	9	◇気象庁の発表する「洪水警報」と混同しないような工夫が必要。 ■「〇〇川洪水警報」
	②大まかに理解できる。	2	②表現(用語)を改善すべき。	1	
	③理解できない。	0			
洪水情報	①理解できる。	4	①表現はこのままでよい。	4	◇「洪水情報」が、即「洪水警報」を連想させる。 ■「洪水指数」などの数的レベル表示 ■「洪水補足情報」
	②大まかに理解できる。	6	②表現(用語)を改善すべき。	6	
	③理解できない。	1			

水防警報	①理解できる。	2	①表現はこのままでよい。	0	◇水防活動に関わる用語は、理解しにくい言葉で、報道機関から用語に関する質問が相次いでいる。 ■「洪水指数」などの数的レベル表示 ■「洪水被害警報」 ■「水防活動警報」
	②大まかに理解できる。	6	②表現(用語)を改善すべき。	9	
	③理解できない。	3			
溢水	①理解できる。	1	①表現はこのままでよい。	1	◇放送では「水が溢れ出た」とコメント ◇破堤と決壊を理解する住民は少ない。むしろ丁寧に、堤防が切れたが水は溢れていないとか、堤防が切れて、川の水が住宅街に流れ込んでいる・・・等の表現が、理解しやすい。 ■「あふれた」 ■「水があふれる」
	②大まかに理解できる。	4	②表現(用語)を改善すべき。	10	
	③理解できない。	6			
越水	①理解できる。	3	①表現はこのままでよい。	3	
	②大まかに理解できる。	5	②表現(用語)を改善すべき。	8	
	③理解できない。	3			
破堤	①理解できる。	6	①表現はこのままでよい。	4	◇決壊との違いが分からない。決壊に統一出来ないのか ■「堤防が崩れ(壊れ)、川の水があふれる」
	②大まかに理解できる。	2	②表現(用語)を改善すべき。	7	
	③理解できない。	3			
決壊	①理解できる。	7	①表現はこのままでよい。	7	
	②大まかに理解できる。	3	②表現(用語)を改善すべき。	4	
	③理解できない。	1			
外水氾濫	①理解できる。	1	①表現はこのままでよい。	2	◇「外水」「内水」防災機関では通常使われている言葉だが、一般では流通していない。弊社のアナウンサーは知らなかった。 ■内水氾濫のみ「内水」を使用し、外水氾濫は、氾濫とする。 ■「氾濫」
	②大まかに理解できる。	2	②表現(用語)を改善すべき。	8	
	③理解できない。	7			
内水氾濫	①理解できる。	0	①表現はこのままでよい。	2	
	②大まかに理解できる。	4	②表現(用語)を改善すべき。	8	
	③理解できない。	6			